

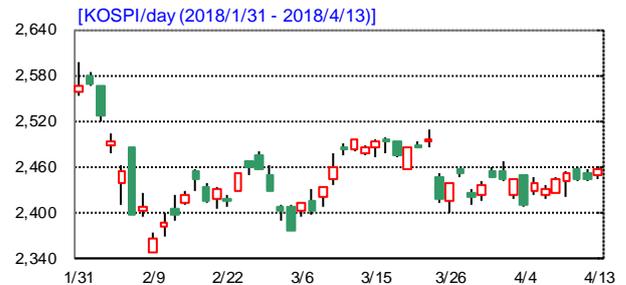


【韓国】 総合指数は週間で 1.0%高と反発、買い戻し優勢 3 週間ぶり高値

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.0%高と反発。米中貿易摩擦の激化懸念が後退したことを受け、総じて買い戻しが優勢。週明け 9 日に反発してスタートすると、10 日は続伸し、終値で 2 週間ぶりの高値を付けた。米中対立による世界経済の先行き不透明感が和らぎ、投資家は運用リスクを取りやすくなった。1-3 月期企業決算の好業績を見込んだ買いも相場を支えた。週半ばの 11-12 日はシリア情勢の緊迫化を嫌気して軟調に推移したものの、13 日は再び 2450 ポイント台に乗せ、3 月 22 日以来、約 3 週間ぶりの高値で終えた。この時点でトランプ米政権がシリア攻撃の判断を先送りしたことも好感された。もっとも 2450 ポイントを超える水準では上値の重さが目立った。今週はシリア情勢などの外部環境をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート

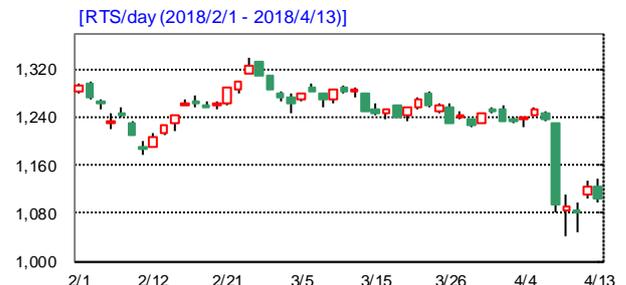


【ロシア】 RTS 指数は 10.7%安と 3 週続落、今週は米欧と関係緊迫化が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 10.7%安と急落し、3 週続落。前週末に米国が 2016 年の大統領選にからみプーチン大統領に近いロシア企業や政府関係者への制裁を発動したことで、ロシア経済への影響が懸念された。週明け 9 日は前営業日比 11.4%安と急落。ロシア株の支援材料となる原油相場が上昇するなか、指数は 10-11 日も続落し、一時は昨年 8 月 23 日以来となる 1042.82 ドルまで下値を広げた。シリア情勢への警戒感が緩んだことで 12 日は前日比 3.8%高と 5 営業日ぶりに反発したものの、13 日は 1.8%安と反落して終了している。年初来では 4.3%安とマイナス圏に転落した。今週は、先週末に米英仏がシリアに対し軍事攻撃を行ったことで、シリアの後ろ盾であるロシアと米欧との関係緊迫化が引き続き重しとなりそうだ。

▼指数チャート



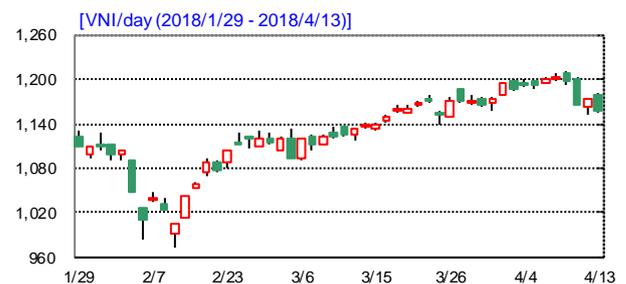
【ベトナム】 VN 指数は週間で 3.6%安と 9 週ぶり反落、今週はスピード調整継続

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 3.6%安と 9 週ぶりに反落。前週までの 8 週続伸を受け、高値警戒感から利益確定売りに押された。前週の好調な流れを引き継ぎ、週明け 9 日も続伸してスタートし、終値での史上最高値を更新。翌 10 日も 1211.34 ポイントまで上値を伸ばし、取引時間中の最高値を更新したが、予想 PER が東南アジア市場で最も高い水準まで上昇したことで高値警戒感が強まった。これまでの上昇相場をけん引してきた不動産や金融株が売られ、10-11 日と続落。12 日はいったん反発したが、13 日は再び売りが優勢となった。時価総額トップの不動産のビンググループは週初に相場来高値を更新したが、週間では 3.6%安と反落。時価総額 4 位のベトナム外資銀行も 7.6%安と指数を押し下げた。今週はスピード調整が続くか。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.5%高、今週は 16 日に 3 月の貿易統計発表

ジャカルタ総合指数は週間で 1.5%高と 7 週ぶりに反発。週前半の上昇が奏功した。9 日は米株先物の上昇を受けて前営業日比 1.2%高と反発してスタート。10 日は 2 月の小売売上高が前年同月比 1.5%と、マイナス成長だった前月からプラスに転じたことなどが好感されて、前日からさらに 1.3%上昇し、終値ベースで約 3 週間ぶりに 6300 ポイントを回復した。11 日も金融株と一般消費財株が指数上昇をけん引し 3 営業日続伸したが、12 日に反動で売られると、13 日も買い材料に乏しく続落して引けた。今週は 16 日に 3 月の貿易統計が発表されるほか、19 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.7%高、金融政策の引き締め方針を好感

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.7%高と 3 週続伸。おおむね堅調に推移した。9 日は金融株が買われて上昇すると、その後も 11 日までじりじりと上値を広げ 5 営業日続伸したが、12 日は通信大手のシングテルなどが売られて反落。一方、13 日は金融通貨庁が 6 年ぶりに金融政策を引き締め方向に転換すると発表したことで金融株が上昇し、指数は終値で約 3 週間ぶりに 3500 ポイントを回復した。同日発表の 1-3 月期の GDP 成長率（速報値）は前年同期比 4.3%で市場予想と一致。今週は 17 日に 3 月の非石油地場輸出が発表される予定で、前年同月比の伸びが 2 カ月ぶりにプラスを回復するかが焦点になる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.6%高、世界銀行がタイの経済成長率見通しを上方修正

SET 指数は 4 日間の取引で 1.6%高と 4 週ぶりに反発。前週末から 5 営業日続伸と好調だった。9 日は世界銀行が今年のタイの経済成長率の見通しを昨年 8 月時点の 3.6%から 4.1%に上方修正したことが好感されて続伸。10 日は中国の習近平国家主席が自動車に対する輸入関税を引き下げる方針を示したことで、米中貿易摩擦の緩和への期待感が高まり、買われた。その後、11 日は金融株、12 日はエネルギー株が指数上昇をけん引し、連休前の取引を終えた。今週は国内の経済イベントが少なく、17 日に発表される中国の 1-3 月期の GDP などの経済指標が焦点。16 日はソンクラーンの振替休日のため休場となる。

▼指数チャート

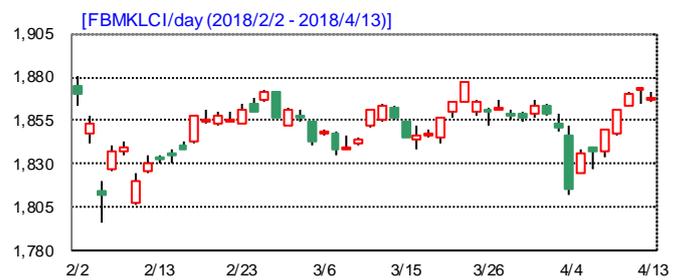


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7%高、今週は 18 日に 3 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.7%高と 3 週ぶりに反発。総じて堅調な値動きだった。9 日は素材関連株が指数上昇をけん引。10 日は 2 月の鉱工業生産発表を翌日に控えた期待感から買われた。同日には選挙管理委員会が下院議会総選挙の投票を 5 月 9 日に実施すると発表している。11 日は鉱工業生産指数が前年同月比 3.0%増と市場予想をやや下回ったものの、テクノロジー株が指数を支えた。結局 12 日まで 6 営業日続伸したが、13 日は利益確定売りで反落して引けている。今週は 18 日に 3 月の CPI が発表される予定で、上昇率の市場予想は 16 年 10 月以来の低い伸びだった前月を上回る前年同月比 1.8%。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。